



トピックス

小笠原母島桑ノ木山における保存事業の概要と保存林内における固有種等の現状

林木育種センター 遺伝資源部 藤原 昭博

1 はじめに

林木育種センター本所では、平成13年度から関東森林管理局東京分局と共同で、小笠原母島の希少樹種等遺伝資源の保存事業を行っています。

小笠原の固有植物等の保護を目的とした保護林の設定は古く、大正15年には石門山及び桑ノ木山において学術参考保護林が指定され、その後、平成元年に保護林の再編・拡充措置が行われ、「小笠原母島東岸森林生態系保護地域」(平成6年設定)をはじめとして、13の植物群落保護林が小笠原諸島の国有林に設定され、希少樹種等が保存されています。

しかし、近年、アカギ等移入種による被害や南島の観光利用などが目立ってきたことから、東京分局において「小笠原国有林の取扱いに関する検討委員会」が設けられ、報告書が取りまとめられました。

この報告書において、固有植物の遺伝資源の保存に関し、『近年、移入植物の侵入により遺伝資源が減少しており、遺伝資源の積極的保存の必要性が高まっているので、林木育種センターと国有林が共同して、母島のアカギ駆除跡地等を活用して希少樹種等遺伝資源の生息域外保存(現地外保存)に取り組んでいく必要がある。』と提言され、東京分局と共同の保存事業がスタートしたものです。なお、探索・収集と増殖については、平成15年度から、(社)ゴルフアの緑化促進協会の協賛も得て行うこととなりました。

以下に、この保存事業の概要並びに保存事業実施区域内の樹種等の生息概況を紹介します。

2 保存事業の概要

この保存事業を行うため、母島の桑ノ木山国有林内に、小笠原母島希少樹種等遺伝資源保存林の設定を行いました(表-1、図-1)。

表-1 小笠原母島希少樹種等遺伝資源保存林の位置・面積

林小班	面積(ha)	該当保護林種
28林班ろ小班内	1.50	植物群落保護林内
28林班は小班内	0.47	森林生態系保護地域利用地区内
計	1.97	



図-1 保存林の位置
西側:28ろ、東側:28は

この保存林について、
1) 区域内のアカギの駆除、2) 母島における希少樹種等の遺伝資源の探索・収集と増殖、3) アカギ駆除跡地への収集・増殖遺伝資源の生息域外保存、4) 区域内のモニタリング、5) 保存した遺伝資源の特性評価、を行うこととしています。

現在、生息域外保存に向けて、表-2に示す樹種の探索・収集と増殖を進めています(写真-1、2)。

表-2 生息域外保存実施予定樹種

樹種名	分布	種の絶滅危惧ランク
オガサワラグワ	小笠原固有	絶滅危惧 A類
セキモンノキ	"	"
オオヤマイチジク	"	"
ムニンモチ	"	"
ハハジマトベラ	"	絶滅危惧 類
ハハジマノボタン	"	"
オオバシロテツ	"	情報不足
シマホルトノキ	"	"
オオバシマムラサキ	"	"
ムニンシロダモ	"	"
ムニンイヌグス	"	"
アデク	(注)	"
ウドノキ	"	"
計13樹種		

(注)小笠原諸島のものをアデクモドキとして琉球諸島等其他地域のアデクと区別する見解があり、その場合は小笠原固有。



写真-1 探索したセキモンノキ(左)とオオヤマイチジク(右)

【お知らせ】 林木育種センターでは、林木遺伝資源を試験研究用に種子、花粉、穂木、苗木などで配布しています。厳密に品種・系統が管理されており、皆様の研究材料として最適です。価格は1点あたり消費税別で3,190円です。詳しい内容や入手方法につきましては、本誌裏面に記載のホームページをご覧ください。メールまたは電話でお問い合わせください。



写真 - 2 シマホルトノキの増殖状況

また、区域内における立木の毎木調査、位置等の調査、草本等の希少種の有無及び位置等の調査を行い、調査データから希少草本種等に影響を及ぼすと思われる区域等を除き、平成15年2月から3月にかけて、表 - 3のとおり、一部のアカギの巻き枯らし（環状剥皮）を実施しました。

表 - 3 アカギの巻き枯らしの実施本数

林 小 班	実施本数	区域内アカギ本数
28林班 <small>ろ</small> 小班内	106	555
28林班 <small>は</small> 小班内	48	534
計	154	1,089

3 保存事業実施区域内の固有種等の生息概況

胸高直径5cm以上の毎木調査の結果並びに希少草本種等の有無及び位置等の調査結果を小班毎に示すと次のとおりです。

(1) 28林班ろ小班内の保存林



写真 - 3 湿性高木林

保存林区域内にはアカギを含めて35樹種、3,240本が生育しています。駆除対象木のアカギ555本の外、生息域外保存実施予定樹種のオガサワラグワ、オオヤマイチジク、オオバシマムラサキ、ムニンモチ、ムニンイヌグス、シマホルトノキ、オオバシロテツ、アデク、ウドノキや、絶滅

危惧 類のオガサワラボチョウジ、シマモチなどが生育し、アカギの侵入が著しい桑ノ木山の中でも、比較的在来樹種が多く残り、湿性高木林を形成しています（写真 - 3）

生育本数が多いのは、駆除対象のアカギを除くと、モクイチバナ（1,721本）、ヤロード（259本）、シャリンバイ（84本）、ムニンイヌグス（75本）、ムニンエノキ（62本）、アカテツ（62本）、ヒメツバキ（46本）となっています。

また、希少野生草本種等の調査の結果、区域内には、絶滅危惧 A類のツルキジノオ、シマクジャクシダ（写真 - 4）、ムニンモチ（低木状のもの）、絶滅危惧 B類のチクセツラン、ムニンボウランの外、ハハジマハナガサノキ、ヒメフトモモ、ホソバクリハラン、シマオオタニワタリ、シマクジャクシダ等が生育していることが判りました。



写真 - 4 ツルキジノオ(左)とシマクジャクシダ(右)

(2) 28林班は小班内の保存林

保存林区域内にはアカギを含めて20樹種、844本が生育しています。駆除対象木のアカギ534本の外、生息域外保存実施予定樹種のセキモンノキ、ムニン



写真 - 5 ほぼ純林状態のアカギ巻き枯らしを実施している

モチ、ムニンイヌグス、シマホルトノキ、オオバシロテツや、絶滅危惧類のオガサワラボチョウジなどが生育していますが、ヒメツバキが純林状態となっている区画を除き、アカギの侵入が著しい箇所の一つとなっています（写真 - 5）

また、希少野生草本種等の調査の結果、区域内

には、絶滅危惧 A類のムニンモチ（低木状のもの：写真 - 6 左）、絶滅危惧 B類のムニンホラゴケの外、オガサワラシシラン、ホソバクリハラン、マツパラン、リュウビンタイモドキ（写真 - 6 右）、シマオオタニワタリ、ヒメフトモモ、オオトキワシダ、ムニンハチジョウシダ、セキモンズゲ、シマギョクシンカ等が生育しています。



写真 - 6 ムニンモチ(左)とリュウビンタイモドキ(右)